

人を残すは・・・

昨年夏、この通信でこんな感じの文章を書かせていただいたのを覚えているでしょうか？

昨夏エースだった北村（内部進学生）のプレーを小学6年生の息子が観て、（受験）勉強を頑張って市立浦和中学へ進学したいと言ってきた・・・そんな手紙を学校私宛にいただいたという内容です。

先日、その保護者の方から再び手紙をいただきました。無事、市立浦和中学に合格しました。3年後、野球部に入部となったらお願い致します。そんな内容でした。

高3生の北村が人を残してくれました。
とても素晴らしいことです。
今回のような流れで、市高らしさがどんどん引き継がれていくといいなと思います。

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 8 . 2 . 1 3

発行ナンバー 1 2 4 7 号

決断

まだ記憶に新しい前回のWBC、あっという間に3年が経ち、またあの戦いを観ることができると思うと今からワクワクしています。いきなり話は脱線しますが、前回大会の準決勝・メキシコ戦の時は確か市高グラウンドで練習試合中でした。その試合中（練習試合自体は全然盛り上がる所でもないのに）市高の敷地内や周辺の民家からウォーという歓声があがったのを今でもよく覚えています（村上選手がサヨナラタイムリーを打った瞬間です）。

先日、今回のメンバーが発表されました。

限られた人数しか選べませんので、選考が大変だったと思います。また、そこには様々な「決断」があったことが想像されます。正直、もし私が日本代表のメンバーを決めるのであれば、もう少しセンターラインの守備力を重視した人選にする・・・など、人それぞれの考えがあるわけです。ただ、こればかりは監督（井端監督）が責任を持って行わなければならないことであり、他がとやかく言うことではないのです。

話は変わりますが、今年は政治の世界でも年初から「決断」を強く感じる出来事がありました。高市総理は、選挙をするならここで！・・・季節や天候など一切気にせず「決断」をして勝負に出ました。その姿勢を素晴らしいと思いましたし、これも周りがとやかく言うことではないのです（総理にはその権限があります）。

話を戻します。

いよいよシーズンが始まり、規模やレベルは全然違いますが、私も「人選」や「決断」をしなければならない日々がスタートします。

責任も持って行いたいと思います。

読書のすすめ

中学入試や高校入試の際、市高の場合、教員の本部は図書室になります。この本部というのは入試の公平さを保つため私物の持ち込みが一切禁止されています（個人の筆記用具ですら持ち込めません）。

そのようなルールなので、ちょっとした空いている時間どのような行動になるかというと・・・図書室にある本を読む（眺める）という感じになるのです。

先日の中学入試時、そんな感じでお薦めコーナーにあった「汝、星のごとく」という本を読み始めるとこれがまた引き込まれる内容で・・・続編の「星を編む」という本まで一気に読むこととなりました。

内容について触れるスペースありませんが・・・ぜひ、読んでみて下さい。